

厚生労働大臣
舩添要一 様

前略

平成 21 年 8 月 17 日付けでご依頼のあった新型インフルエンザ（H1N1）ワクチンの接種対象者、優先順位等について、8 月 18 日に開催された「日本感染症学会・新型インフルエンザ対策委員会コアグループ及び診療ガイドラインワーキンググループ合同委員会」（とりまとめ：渡辺彰東北大学教授）において討議致しました。また、平成 21 年 8 月 21 日～23 日北京で開催された中国衛生部、WHO、THE LANCET 共催の国際シンポジウムに、私自身が出席し情報収集致しました。以下に現時点での日本感染症学会としての意見をまとめ、ご報告申し上げます。

（1）前提とした事項

1. 新型インフルエンザワクチンの安全性が、従来の季節性インフルエンザウイルスに対するものと同等であると考えられること。
2. 新型インフルエンザワクチンの効果（免疫原性）が、従来の季節性インフルエンザウイルスに対するものと同等であると考えられること。
3. 従来の季節性インフルエンザワクチンが、感染予防ではなく主に重症化を軽減する効果と目的を持ったものであること。
4. 新型インフルエンザワクチンの今シーズンの国内供給量が 1,700 万人分にとどまり、国民に対し十分な供給量が見込めないこと。

（2）考え方の根拠とした事項

1. 世界各地で新型インフルエンザの感染者は 10 代～20 代の若者に多い傾向がある（資料 1）。
2. 一方、確定例で重症化した人たちや死亡者の年齢は高い傾向にあるが、65 歳以上では重症者が減少する傾向にある（資料 2）。
3. 基礎疾患を有する場合、入院等重症化の傾向がある（資料 3）。
4. 妊娠特に第 3 期は、入院や肺炎など重症化傾向がある（資料 4）。
5. WHO による新型インフルエンザワクチンに関する推奨がある（資料 5）。

（3）感染症学会の考え方

WHO はすべての国々で、医療従事者に優先的にワクチンを接種することを推奨しています。新型インフルエンザが蔓延期に入っているわが国においても、介護施設を含む医療施設の従事者は新型インフルエンザウイルス感染者に接触する確率も高く、積極的なワクチン接種が推奨されると思われます。新型インフルエンザによる重症化は基礎疾患を有する

方々に多いとされており、喘息や COPD などの慢性呼吸器疾患、人工透析を要する慢性腎不全等の腎疾患、心血管障害、糖尿病などの代謝疾患、免疫不全症あるいはステロイドや化学療法などによる免疫不全状態などを有する場合、積極的なワクチン接種が推奨されます。また、妊娠は新型インフルエンザの重症化と関連があるとされており、積極的なワクチン接種が推奨されます。また、肥満がインフルエンザの重症化と関連すると考えられているようです。

健常者のワクチン接種についても積極的に考慮すべきと考えますが、重症化と年齢との関連、集団生活との関連、インフルエンザ脳症発症頻度との関連、臨床試験における抗体獲得と年齢の関係等を考慮して議論すべきだと考えます。また、救急搬送に携わる方々や社会の機能維持に必要な業務に携わる方々への配慮も必要だと考えます。

新型インフルエンザワクチンの効果は、まだ十分証明されたわけではありません。季節性インフルエンザに対するワクチンの目的も重症化予防に重点があることを再確認し、日常生活上の注意を含め、総合的な予防対策が講じられることを期待します。最後になりましたが、ワクチンの供給が促進されることを強く望みます。また、上に述べた意見も今後の流行と経験を踏まえ、必要に応じて検討されることを希望いたします。

2009年8月25日

日本感染症学会

理事長 岩本愛吉